

年頭のごあいさつ



美浦村長
中島 栄

新年あけましておめでとうございます。
令和4年の新春を健やかに迎えのことと心より喜び申し上げます。

本年も皆さまのご期待に応えられるよう「人と自然が輝くまち 美浦」の村政運営の先頭に立ち、執行部と村議会の総合力を生かし、長い歴史が育んできた美浦村の文化を守りながら、皆さまと共に歩んでまいりたいと存じます。

さて、昨年の社会情勢を顧みますと、新型コロナウイルスは日本のみならず、世界的に猛威を振るい、世界約2億7千万人の感染者を出す事態となり、人の移動や各種イベントの自粛など、経済面に大きな影響を与えました。緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が継続的に出される中、子ども達の学校生活から大人の社会生活まで、

「し」とするべく、防災行政無線の整備や災害時の備蓄を進めるなど、より一層装備を拡充し、より安心・安全なまちづくりを進めていきたいと思っております。皆さまにおかれましても防災意識を高く持ち、いざという時に速やかに行動に移せるよう日頃からの備えをお願いいたします。暗い話題が続く一方、明るい話題もありました。スポーツ界では4月にプロゴルフの松山英樹選手がアジア人初のマスターズ優勝を果たし、11月にはアメリカ大リーグでリアル二刀流として活躍した大谷翔平選手がシーズンMVPに選出されました。また、科学界ではアメリカプリンストン大学上席研究員の真鍋淑郎博士がノーベル物理学賞を受賞しました。そして何より、コロナ禍で暗い気持ちだった日本・世界を明るくしたのは7、8月に開催された東京2020オリンピック・パラリンピックではないでしょうか。世界205の国と地域から約1万5千人の選手が参加し、熱い戦いを繰り広げました。なかでも、新種目であるスケートボードの西矢椋選手や中山楓奈選手などの10代の選手の活躍には目を見張るものがありました。老若男女問わず世界レベルで活躍する日本人の姿が見受けられました。

村では、JRA美浦トレーニングセンター藤沢和雄厩舎のグランアレグリア号が、引退レースとなる、阪神競馬場で11月21日に開催されたGIレース「第38回マイ

感染防止の日常が当たり前になってしまった1年となりました。現在、茨城県では新規感染者数も減少し、1桁か0人の日も見られるようになりました。しかし、南アフリカで変異株の「オミクロン株」が報告されるなど、まだまだ、予断を許さない状況です。これからも予防対策の徹底や3密を回避するなど、感染の抑止に取り組むことが求められています。

また、近年増加している自然災害は、昨年も日本に大きな爪痕を残しました。特に7月には、静岡県熱海市で集中豪雨による土石流が発生し、26名の尊い命が失われました。8月には、長引く大雨で九州地方を中心に西日本、岐阜県や長野県まで広範囲で河川の氾濫や浸水に見舞われました。災害はいつ起こるか予測するのは非常に困難です。村では想定外の有事にも「備えあれば憂いな

ルチャンピオンシップ」において2連覇を達成し、有終の美を飾りました。JRA芝GIタイトルを6つ獲得、生涯獲得賞金も10億円突破と競馬ファンならずともその名を轟かせる名馬が美浦から誕生しました。

全国の町村では少子高齢化が進み、深刻な状況が続いています。しかし、先人たちが守ってきた伝統文化の継承や自然環境の保全是、私たちが担っていくべきではありません。魅力ある地域社会を継続していくためには、住民と行政が手を携え、主体的・自立的に施策を展開していくことが不可欠であり、それが基礎自治体たる美浦村の発展につながります。昨年から国道125号バイパスの4車線化が進み、地域交流館周辺への新たな事業展開も見られ、まちづくりの新たな一歩を踏み出してまいります。

今後も「地域主権」の確立に向けて村民の皆さま自らが村づくりに参加され、「自分たちの村は自分たちで創り守る」を念頭に、ともに発展していくよう最大限努力してまいります。村民が主役の村政へのご支援ご協力を心よりお願い申し上げますと共に、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

令和四年 新春